

茶園

800 年ほど前、明恵は高山寺近くに茶の種を植えた。高山寺は茶の伝統を称えて小さな茶畑を維持しており、毎年 5 月には僅かな収穫がある。

中国を旅した後、禅僧の栄西(1141~1215 年)は茶の種を日本に持ち帰った。彼は明恵に一部を与え、明恵はそれを高山寺近くで栽培した。当時、僧侶が長時間の瞑想をする際に眠らないように茶が使われていた。

明恵は日本の茶の歴史において重要な役割を果たした。彼の茶の栽培活動は最終的に高山寺の南東約 30 キロにある宇治での大規模な栽培につながった。宇治は現在でも日本有数の茶の産地で、肥沃な土壌と良好な天候で知られている。宇治の茶の生産者は毎年 11 月 8 日に高山寺を訪れ、その年の春の初摘み（新茶）をお供えする。